

どしゃ降りの雨の日のことでした。夕刻だったので、帰宅途中の
人でバスの中は満員でした。バスは都心を抜け、郊外へと差しかか
ります。早く家に帰りたいたいと思いつつも、ラッシュ時なので環状
線の道路はとても込んでいます。バスはなかなか前に進んで行きま
せん。冬だったので車内に暖房が効いていたとはいっても、洋服や
靴が雨でぬれているので、足元から寒さがしみてきました。

そのとき突然、前の方で子供の声が聞こえました。その子はトイ
レに行きたくなったけど、どうしたらよいかと運転手に相談してい
るようでした。すると、運よく次のバス停の真ん前がコンビニエン
スストアだったのです。運転手はその女の子をバスから降ろし、車内
アナウンスでこう話しました。道は込んでいてまだ時間がかかります
。お金は次に乗ったバスで払ってもらえればよいですから、もし
トイレを我慢している人がいればここで降りてトイレを借りてくだ
さいと話しました。とても明るく親しみのある話し方に好感が持て
ました。すると数人の乗客が運転手にお礼を言いながらバスを降りて
行きました。その運転手のとっさの機転と優しさに、わたしは雨の冷
たさも忘れ、しばし温かい気持ちになりました。